VOL.77

平成27年7月発行

プレカットニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会
東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階
TEL 03 (3580) 3215　FAX 03 (3580) 3226
http://www.precut-kyokai.com

第5回定時社員総会開催される

―― 新会長には原田実生氏が就任 ――

第5回定時社員総会会場

当協会は、第5回定時社員総会を平成27年6月16日（火）に東京都千代田区麹町六丁目のスクワール麹町において開催しました。

櫻井会長は、冒頭の挨拶の中で、「我が国経済は、リーマンショック以来の円安水準や株価の上昇、また、原油の下落等が影響し、景気は上向いているが、消費税率の引き上げによる景気の落ち込みの戻りは遅い状況にあり、また、その足取りは、地域による差異が見られる。今後の一層の景気回復と持続的な経済の再生が図られるよう、引き続きアベノミクスの成果が期待される状況が続いている。平成26年度の新設住宅着工戸数は、88万戸と前年度に比べて－10.8％の大幅な減少になっており、プレカット加工業の業況は、工場稼働率の低下と加工単価の下落低迷が続き厳しい状況が続いている。一方、我が国の森林資源の供給ポテンシャルは着実に増大している。これを受けて、木材自給率50％の実現に向けた総合的な木材利用の推進や加工流通体制確立等の施策展開が進められており、木材産業の成長産業化へ進展が期待されている。このような中で、プレカット加工業は木材生産と木造住宅生産分野の接点に位置している。特に、工務店等のお客様のご要望に添った安全・安心の住宅供給のためには、ＣＡＤオペレーターの役割は重要になっている。昨年度、当協会が技術支援対策として実施したＣＡＤ技術者研修には、非住宅分野への対応も含め全国で210名の受講者があり、また、プレカットＣＡＤ技術者認定登録においては160名の登録があった。本年度においても、より一層この取り組みを深化させるとともに、プレカット加工ＣＡＤを活用した各種の木造住宅生産に関するサービスの支援に努めてまいりたい。ご来賓をはじめ関係者の皆様には、今後とも当協会をよろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げる。」と、厳しい環境の中で協会活動の活性化に向けた決意が述べられました。

また、来賓を代表して、林野庁木材産業課木材製品技術室長小坂善太郎様からは、「現在、戦後植栽した人工林の循環利用が課題になっており、林業の成長産業化を促進するためには、山の資源をしっかり使うことが重要である。具体的には、①木材の需要拡大を図ること。②それに対応できる国産材の安定的、合理的な供給体制を作っていくことである。このうち、木材需要の拡大につてみると、低層住宅の9割は木造であり、プレカット加工業に大変お世話になっている。しかし、低層でも非住宅になると木造は1割になっている。技術的には木造で建てられるが、そうではない現実が存在しており、このような中で、合理的な設計により、一般流通材を利用しながら非住宅の木造化を進めて行く動きが本格化

小坂室長の祝辞

している。プレカットＣＡＤ技術者の養成においても、非住宅の低層部分を念頭においた取り組みが行われており、今後、一層の非住宅の木造化を進めて行きたい。一方、３、４階建ての中高層の建物についてはＣＬＴの利用や１時間耐火の認定取得等により、都市での木質化の進展が進み、木が溢れる環境を作ることが可能になっている。こうすることで、林業を通じて、山も良くなり地方も良くなり、国も良くなる構図が現実化する。このためにも、住宅関連の木材流通の要であるプレカット加工業の発展を期待したい。」と激励の祝辞がありました。

内田室長の祝辞

次に、国土交通省住宅局木造住宅振興室長内田純夫様からは、「昨年度の住宅着工数は、対前年度で１割減少し、省エネエコポイント制度、フラット 35 の金利引き下げ、贈与税の非課税枠の拡大等の政策的手段により住宅市場の下支えを行い、是非、住宅市場が元気になるよう応援させていただいている。住宅市場を中長期的にみると、まだまだ、潜在的には木材を使用する分野はあるのではないかと思う。その一つは、非住宅分野であり、また、今後、着実に使用量が伸びるのとみられるのは住宅のリフォーム需要である。リフォームでは必要となる部材は、より細かくロットを分ける必要があるが、着実にニーズがあり長い目で見ると相当なボリュームになり、新たなマーケットが生まれて来るのではないかと思われる。今は、住宅の部材も複雑化しており、きちんとコントロールしないとちゃんとした部材の生産はできない。プレカット加工業の皆さんの支えで木造住宅業界はあるので、多様な木造建築物の技術力向上に励んでいただきたい。」と品質の高いプレカット部材の供給に寄与する会員工場に対する期待を述べられました。

総会の議事では、まず、平成 26 年度事業報告、収支決算報告が上程され、事務局説明の後、監事の監査報告があり、原案通り可決されました。また、平成 27 年度事業計画、収支予算について報告事項として説明され、異議なく了承されました。

櫻井会長の退任挨拶

今回の総会は、役員の改選期に当たり、会長職を３期６年の任期を努められた櫻井秀弥氏が勇退され、後任の会長には原田実生副会長（原田木材㈱）が選任されました。原田氏の後任には、後藤修一氏（㈱ウンノハウス）が選任されました。

櫻井会長は、退任の挨拶で「３期６年間会員の皆様には大変お世話になり、平成 23 年の一般社団法人化により組織と事業の充実拡大を行うことができた。一方、この業界では寡占化が進んでおり、今後、社会経済情勢の変化に機敏に対応できる体制をつくるようお願いしたい。」と述べられました。また、原田新会長は、「現在、木材・住宅業界は、消費税引き上げ後の反動減の影響から未だ抜け出せない状況にある。このような時こそ、消費者のみなさんが求める優良な住宅を供給するため、四号建築物ばかりでなく非住宅分野においても、品質、規格の確かな資材を使用した耐久性の高いプレカット部材生産ができるような人材育成を行うとともに、プレカット加工ＣＡＤを活用した木造住宅の情報センターとしての役割も果たせるよう、新たなプレカット加工業に脱皮することが課題になっているので、これらの動きに適切に対応していきたい。」と新役員を代表して挨拶がありました。

原田新会長の挨拶

総会に引き続き、株式会社東京チェンソーズ　代表取締役　青木亮輔氏による「森の恵みを可視化する」と題した記念講演が行われました。青木氏は東京都西多摩郡檜原村で林業会社を経営されており、全国の有名林業地の林業会社とは異なった経営目的を持った会社としてその活動内容が注目されています。

講演の中では、「森の恵みを木材利用につなげるために情報発信を中心として、ニーズにあった新事業を企画している。特に、外部からみた場合、農業、漁業は何となく見える（農産物、水産物が身近にある）が、林業は

講演中の青木亮輔氏

何をやっているのか見えてこない。目指すのは、明るく稼げる林業で、補助金にたよらない新しい林業をやってみたいという思いからスタートし、現在の社員は12名、アルバイト２名で、林業、イベント、情報発信、新規事業等を行っている。林業は、東京都の花粉対策事業、企業の森の整備、景観維持のための伐採、採掘現場での事前伐採等である。イベントは、体験林業からツリークライミング、チェンソー体験、道作りイベント等、林業の未経験者を対象として年間数百人の参加を得ている。情報発信は単発だったイベントを参加者のニーズに合わせて結合し、東京美林倶楽部（森の恵みをご案内)、ＴＯＫＹＯ　ＷＯＯＤ対応等をやっており注目されている。

これらの、情報発信を通じて、東京の森林のもとで、地球の幸せのために山の今を伝え、きれいな水と空気を再生し、持続可能な森林を活かし育んでいきたい。」森の恵みをより広く普及するための日々の活動について説明されました。

普段は、川下分野の講演を聞く機会の多い参加者は、都内の林業地での林業生産とともに、森林資源の環境方面への積極的な活用を通して持続的な森林経営の目指す講演内容に感銘を受けました。

平成27年6月16日

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会

役　員　名　簿

（役職名）	（氏　　名）	（会　社　名　等）
会　　長	原　田　実　生	原田木材株式会社
副 会 長	島　田　泰　助	一般社団法人全国木材組合連合会
副 会 長	後　藤　修　一	株式会社ウンノハウス
常務理事	肥　後　賢　輔	一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会
理　　事	川　村　　武	株式会社カワムラ
理　　事	小野田　康　生	株式会社オノダ
理　　事	山　田　範　夫	ニューハウス工業株式会社
理　　事	畑　中　　淳	株式会社一条工務店
理　　事	鎌　田　茂　徳	大日本木材防腐株式会社
理　　事	海　部　幸　治	株式会社ケー・エイチ・ケー
理　　事	榎　本　長　治	株式会社山長商店
理　　事	山　下　和　夫	山下木材株式会社
理　　事	吉　田　　潤	ヤマサハウス株式会社
監　　事	遠　藤　又四郎	株式会社万代
監　　事	長　江　　一	株式会社ウッド・ストラクチャー

プレカットCAD技術者認定登録の実績

―　平成24、25年度研修修了者関係　―

当協会では、プレカットCAD技術者基準に基づき、CADオペレーターの皆様を対象として、平成24年度からプレカットCAD技術者研修を実施してきました。この度、当協会のプレカットCAD技術者認定実施規程に基づき平成24、25年度の研修修了者を対象として、認定登録を行いました。認定の実績は次のとおりです。なお、平成26年度研修修了者については、現在、認定登録申請を受付中です。

受講年度	受講コース	東京会場		名古屋会場		大阪会場		合計	
		認定者（人）	うち会員工場に所属する者	認定者（人）	うち会員工場に所属する者	認定者（人）	うち会員工場に所属する者	認定者（人）	うち会員工場に所属する者
24年度	2級	34	22	21	8	24	10	79	40
25年度	1級	17	10	—	—	—	—	17	10
	2級	21	11	20	8	17	2	58	21
	3級	4	1	1	1	1	0	6	2
合計	1級	17	10	—	—	—	—	17	10
	2級	55	33	41	16	41	12	137	61
	3級	4	1	1	1	1	0	6	2

木材利用推進「全国会議」開催のお知らせ

平成27年度木材利用推進「全国会議」は次の日程で開催されることになっています。木の街づくりの新時代を開く取り組み事例を中心に、関係省庁の公共建築物・街づくり等の木材利用推進の取組や講演を予定しています。会員の皆様の多数ご参加をお待ちしております。

日　時：平成27年7月31日（金）13：00～17：30
場　所：木材会館　7階ホール　東京都江東区新木場1－18－8

第1部　木材利用推進「全国会議」

1 木材利用推進中央協議会会長挨拶
2 来賓挨拶
　林野庁
　国土交通省
3 公共建築物・街づくり等木材利用推進の取組
（1）国の施策・取組
　①林野庁　　木材利用課
　②国土交通省　大臣官房官庁営繕部木材利用推進室
　③文部科学省　官房文教施設企画部施設助成課
（2）講　演「木材利用新時代の取組」
　①木の街づくり事例とその効果と今後の展開方向
　　～木の街づくりを推進するための提言1～
　講師　国立研究開発法人　森林総合研究所　研究コーディネーター　木口　実　氏
　②ヨーロッパの木造建築から「日本の木造建築」考える
　　～木の街づくりを推進するための提言2～
　講師　法政大学　デザイン工学部　建築学科　教授　網野　禎昭　氏

第2部　木材利用優良施設の表彰式

平成27年度木材利用優良施設の表彰式
（1）審査講評　審査委員長
（2）賞状授与　①農林水産大臣賞
　②林野庁長官賞
　③木材利用推進中央協議会会長賞
（3）挨拶　林野庁長官
（4）挨拶　受賞者代表

平成26年　協会会員工場基礎調査結果について（第2回）

── 会員からみたプレカット加工率について ──

平成26年12月末現在の会員工場基礎調査結果に基づき、地域別のプレカット加工率を推定しました。その結果、全国平均では90.4%となりました。会員の皆様には、駆け込み需要の対応等で大変お忙しい中、アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。

プレカット加工率(%)	北海道･東北	関東	中部･近畿	中国･四国･九州	全国計
75 ～ 79	75				75
80 ～ 84	80、80、80	80			240
85 ～ 89				85、87	172
90 ～ 94	90、90、90、90	90、90、90、90、90、90	90、90、90、90、93	90、90、90、90	1,713
95 ～	95、95	95、95、95、95、95	95、95、95、95、95、98	95、95	1,428
合　計	865	1,095	1,026	722	3,708
（平　均）	（86.5）	（91.3）	（93.3）	（90.3）	（90.4）
〔前年平均〕	〔84.8〕	〔92.1〕	〔91.8〕	〔89.5〕	〔90.0〕

◇簡単なコメント

1　平成26年12月末の会員が推定する地域のプレカット加工率は、全国平均で90.4%と前回調査（平成25年12月末）に比べて0.4ポイント上昇しました。平成26年の新設着工戸数は、消費税率引き上げによる駆け込み需要の反動減の影響で対前年に比べ約1割減少しました。このため、現場での労働力需給の関係から手作業による継ぎ手仕口加工が増加し、プレカット加工率は低下するのではないかとも予想されていましたが、今回は、微増になりました。

2　全国各地域のプレカット加工率については、依然として地域間のアンバランスが見られます。北海道・東北地域では、最近、加工率の上昇は著しく、今回は1.7ポイント上昇し、86.5%になっており、震災復興と現場での人手不足が影響しているものとみられます。一方、加工率の高い中部、近畿地域においては1.5ポイント上昇し、93.3%になっています。機械プレカット部材の使用がより一層の現場作業の効率化と施工性の向上に寄与していることが読み取れます。

プレカット業況調査（平成27年5月期）

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ（回答率：65%）

設　　問	回答率（%）			DI	前回DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1　今月の受注額は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	32	46	22	＋10	－37
1-2　3ヶ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	22	67	11	＋11	＋21
2-1　貴社の坪あたり平均総加工単価はいくらですか。	答:6,130円(対前回調査－10円)				
3-1　今月の製品加工単価は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	8	84	8	0	－7
3-2　3ヶ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	0	86	14	－14	－12
4-1　今月の資材（製品）入手状況は如何ですか。 (1) 容易 (2) 変わらず (3) 困難	27	62	11	＋16	＋44
4-2　3ヶ月後の資材（製品）入手状況をどう予測しますか。 (1) 容易 (2) 変わらず (3) 困難	19	68	13	＋6	＋12
5-1　今月の収益は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)良い(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪い(5%以上の減)	24	65	11	＋13	－42
5-2　3ヶ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	13	65	22	－9	＋3

＊ DI＝(1)の%－(3)の%、＋の数値が大きいほど好況、－の数値が大きいほど不況。
＊前回調査：平成27年2月

◇簡単なコメント

５月の各設問のＤＩは、加工単価、収益の３ヵ月後の予測以外はプラスになっているものの、その値は大きくはなく、業況は緩やかな回復基調にある。また、資材関係は総じて、軟調であり、この状況は３ヵ月後においても続くとみられる。しかし、３ヵ月後の加工単価、収益の予測は、マイナスに転じていることから、秋の需要期に向けて現在の業況がどの程度の持続性があるのか関心が持たれる。

1. 受注額のＤＩは＋10で前回調査時（平成27年2月期）に比べて好転しているが、新築住宅着工数の減少の影響は依然として続いていると読み取れる。また、3ヵ月後の予測のＤＩは、＋11であるが、悪化するとの回答も22%あり、徐々にではあるが受注額は好転しているもの。
2. 3ヵ月前と比較した製品加工単価のＤＩは0である。平均総加工単価は6,130円と3ヵ月前に比べて10円低下したが、横ばいといえるであろう。しかし、3ヵ月後の製品加工単価のＤＩは－14で、現在の状況が持続するかどうか懸念される。
3. 資材入手状況のＤＩは＋16と、前回に引き続き入手環境は軟調に推移している。3ヵ月後の予測においては＋6であり、現在の状況が今後も続くものとみられる。
4. このようなことから、3ヵ月前と比べた収益のＤＩは＋13で、前回調査時の3ヵ月後の収益予測もプラスになっていることから予測に沿うものになっており、緩やかな受注回復の方向にある。しかし、3ヵ月後の収益の予測は－9であり、先行きは未だ楽観はできない状況といえる。